

住環境マインドを育てる

家政教育専修・曲田 清維

1. 授業の目的と概要

「子ども・環境・まちづくり」は、2回生前期の「住居計画演習」、後期の「住居学」の受講を経て、3年前期開講で生活環境コースと学校教育実践コース家政教育専修（こちらは「住環境教育論」で開講）の学生の相当数が受講する。今期の受講生は15名でほぼ例年通りである。2009年前期のスケジュールは以下である。

<2009年前期スケジュール>

- 4/14 環境から学ぶ
- 4/21 子どものための住まい・まちづくり学習の考え方
- 4/28 子どもを取り巻く環境
- 5/12 子どもの権利条約にみる環境計画への参画
- 5/19 住まい・まちづくり学習の視点
- 5/26 5感で楽しむキャンパス探検1
- 6/2 5感で楽しむキャンパス探検2
- 6/9 カリキュラムガイダンス7について
- 6/16 安心安全なまちを子どもたちに
- 6/23 絵本にみる住まいとまちの学習
- 6/30 住まい・まちづくり絵本の紹介
- 7/7 住まい・まちづくり絵本の素案
- 7/14 住まい・まちづくり絵本作成作業1
- 7/21 住まい・まちづくり絵本作成作業2
- 7/28 発表ワークショップ

今年度は、例年のまち探検による作業を元にした最終ワークショップを改め、受講生全員がそれぞれ、住まいや環境、まちづくりに関する絵本を作成し、最終回に全員で発表、評価し合うというものとした。絵本の作成は、結構骨の折れるものであり、時間数が少ないのが気になりつつも受講生の学習レベルを考慮しながらの提案とし、最終回までこぎ着けた。

2. 授業の評価

授業評価として尋ねた3点について紹介する。3点は少々具体的で次回以降の参考とするものであり、①授業の手がかりとして配布した資料—子どもの権利条約や住まい・まちづくり学習関連の相当数—の内容の適切さ、②資料のボリュームの適切さ（実は結構多い）、③学習全体の理解度（自己評価）、である。

(1) 授業の内容の適切さ

授業内容については、とても適切(4)、まあ適切(11)、普通(1)、であり、まずまずの評価である。例年だと難解とする学生が若干存在したが、今年は皆無であり、それは過去の反省で少し丁寧な解説し、皆で議論した結果とも思われる。

(2) 資料のボリューム

資料は印刷物を配布し、学習の手がかりとしており、そのボリュームについては例年、大量ゆえに不満が多い。今年は、とても適切(2)、まあ適切(6)、普通(5)、であるのに対し、「あまり適切でない」とする受講生が2名存在し、大凡は良しとするものの、依然として未消化に終わっている受講生もいることになる。

(3) 授業全体の理解度

結果的に授業全体の理解度は、よく理解できた(5)、まあ理解できた(9)、普通(1)、と、これも自己評価としてはまずまずと思われる。

実際、授業の際の議論のための事前準備も必要で、最終版での絵本作成に要する時間も多く、学生の負担は決して少なくない。しかし、各人がそれぞれ意欲的に取り組み、資料を読みこなし、オリジナルな絵本づくりに取り組むものとしては、結構達成感のあるものとして位置づけられよう。

3. 絵本作成作業について

今年度は、授業のまとめとして受講生各自に、住まい・環境・まちづくりに関する絵本作成を課し、最終回に発表会を行った。絵本の対象は幼児から中学生まで各自が自由に設定しながら、住環境に関わる問題設定と、それをどう表現するかという2つの住環境マインド育成を目標に進めた。

与えられた期間は約3週間であり、時間的には厳しいものだったが、力作続出で発表会も楽しく充実したものとなった。

絵本の作成に関する感想の一部を以下に記載する(自由記述)。

- ・子ども向けに製作することで噛み砕いた易しいストーリーになり、大人にも読ませられるような内容にすることができたと思う。大変だったが楽しんで作成でき、満足した。
- ・内容が決まらなくて大変。また絵を描くのが苦手なので最後まで困った。
- ・自分でも楽しく考え、作成できた。授業で絵本を作ると色々な目線で考えられ、面白い。
- ・内容を深いものにしようとするとう絵がついて行かないし、絵に合わせると内容が浅くなり、バランスが難しい。
- ・子ども向けということので分かりやすい伝え方を考えながら作成せねばならず、「人に伝える」ことの重要性が理解できた。
- ・自分の思いをどのように絵にして伝えたらよいかのが難しかったが、最後は何とか上手く仕上げることができたと思う。
- ・絵本づくりは思っていたより難しい。どんなことを採り入れたら面白い絵本になるのか考えるのに苦労した。物語だけでも絵だけでも伝えるのは難しく、両方がうまく組み合わせることができるのだと実感した。
- ・すごく楽しかった。もっと時間をかけてこだわりたい。
- ・絵本を作成して、子どもの視点で物ごとを見ることの難しさや、幼児期における環境教育の重要性を認識した。ストーリーと絵の見せ方の工夫などは面白いものでしたが、大変だった。

4. 絵本発表会について

最終回の発表会の主な感想が以下である。評価は、授業時間における課題ミニレポート及び絵本の評価点の合計である。

- ・いろいろなアイデアやストーリーが見られ、発表のひとつひとつにワクワクした。
- ・自分では思いつかなかったような内容や絵本形態に興味の湧くものばかりでした。
- ・仕掛け絵本には驚かされた。
- ・低年齢向けの絵本が主だったが、なかには大人向けに近いものもあり、バラエティに富んでいた。
- ・ストーリー性、仕掛け、クイズ形式、素材など工夫するところが沢山で面白かった。
- ・いろいろな絵本を見ることができ、楽しかった。こういう絵本もあるんだ、次の参考にしよう、と考えさせられるものがたくさんあった。
- ・みんなの完成品を見ることができ、とても参考になった。ひとそれぞれ伝えたいことが違い、絵本の内容も面白かった。
- ・飛び出す絵本が数点あり、とても興味深かった。ストーリーの工夫に加え、形を工夫することの大切さも感じた。

5. まとめ

講義、ディスカッション、学内探検、絵本作成、発表ワークショップ、と頭と体を使っての色々な授業形態を組み合わせ、広く住環境マインドを育むべく進めた。学生には概ね好評だが事前の予習や絵本作成など結構な負担となっている。絵本作成は授業の意味を理解すべく、力作で熱がこもったものとなった。

発表会は、各人の読み聞かせで進行し、全員でベスト3を決める投票による相互評価も実施し、スリリングである。投票結果は、教員の評価とほぼ一致し、受講生も納得気味であった。

課題としては、最終のアウトプットとしての絵本で何が伝えられるかの相互理解と検証、評価の仕方、また授業時間外とはいえ、作成時間の確保の問題などがある。